



## 冬休み 家の手伝いと読書を

2学期が終わります。2014年もあと10日で終わります。いよいよ冬休みが始まります。クリスマス、お正月と行事がたくさんあります。ルールを守って、楽しい冬休みにしてください。この時期、多くの家庭で大掃除をすると思いますので、手伝いをするようにしましょう。それと、テレビやスマホ等は控え、読書を楽しみましょう。読書は考える力を養います。この先、みなさんが生きていく社会では、今まで人間がしていたことをコンピュータがするようになります。人間に求められることは、コンピュータにできないこと、新しいアイデアを出したり、どちらにするか迷う時に判断したりすることです。つまり、「考える」ことです。しっかり読書して、考える力を高めましょう。

## Re: 交通マナーについて考える

年末・年始は、車も自転車も歩行者も、みんな急いでいます。交通事故が急激に増える時期です。車と自転車はもちろん、自転車どうし、自転車と歩行者の事故にも十分に注意しましょう。

「浦島伝説」第3号で、交通担当：扇田先生の自転車マナーについてのお話を、「道をゆずる」という題をつけて掲載しました。残念ながら、みなさんの交通マナーはよくなっていません。もう一度、交通マナーについて考えてください。3学期から、全校生で詫中生の交通マナーについて考えていきます。

- ① 並進はせず、一列で走行する。
- ② 歩行者や他の自転車に気を付け道をゆずる。
- ③ 自転車をきれいに並べてとめる。

ちなみに、マナーという言葉は、国語辞典では「態度」とか「礼儀作法」と説明されていますが、要するに「相手の気持ちを考える」ことではないでしょうか。登下校の時に、みなさんが歩道を自転車で通行することは特別に認められていますが、あくまでも歩行者優先です。自転車に乗っているとき、歩いている人や反対側から来る自転車に乗っている人の気持ちを考えたことはありますか？相手の安全や気持ちを考えて道をゆずったことはありますか？

ゆずられた方はもちろん、ゆずった方もさわやかな気持ちになります。それがマナーです。今年は、「道をゆずる」ことのできるさわやかな詫間中学生を一人でも増やしていきましょう。

## ちょっとおもしろい話

状況が同じであっても、考え方しだいで正反対の結果になるという話を、日本と外国で1つずつ見つけました。

◆ 田舎から二人の若者が、花のお江戸に仕事を求めて出てきました。そうしますと、江戸では街角で一杯の水を売っている人がいます。二人はそれを見て驚きます。一人の若者は、「なんと江戸では一杯の水も金を払わないと手に入らないのか。このようなところでは、どうして住み続けることはできない」と気を落として田舎へ帰ってしまう。ところが、もう一人の若者は、「これはおもしろい。江戸では一杯の水を売ってさえ商売ができるのか。知恵を働かせれば商売の道は無限だな」と胸をおどらせて江戸に残ることにしたというのです。

◆ ボブとトニーが広大な砂漠をラクダに乗って旅をしていました。ある日、運悪く盗賊の一団に出くわし、二人とも捕らえられて、鉄製の柵の檻（おり）に閉じ込められました。ボブは、目の前に広がる砂漠を見て、「見渡す限り砂しか見えない。俺はもう助からない」と絶望し、食事がのどを通らなくなって、病気になり動けなくなってしまいました。一方、トニーは、いつか助けが来ると信じて、昼間は無限に広がる青空、夜は満天の星を見て「何と美しい。この空はどこへつながっているのだろう。ここを出たら、この空のはてまで行ってみよう」と希望を持ち、ひどい食事でも残さず食べ、体力と気力がなくならないようにしました。10日ほど後、その盗賊団は別の盗賊団と出くわし、激しい戦いになり、二人が閉じ込められていた檻の鍵が壊れました。このすきに、トニーは逃げ出し通りかかった隊商に救われました。しかし、ボブは・・・。